

外置化構文について —— Extraposition and Extraction ——

登 田 龍 彦

主語位置から外置された節や句から更にその構成素の一部を疑問化、話題化等によって摘出することは、(1)–(4)に示すように文主語の外置文の場合のみ許される。

- (1) a What is it likely that John will buy?
b Charley, it is obvious that Mary does not love.
- (2) a *Which dog did a girl came in who was hitting?
b *The dog, a girl came in who was hittig.
- (3) a *What did new evidence appear yesterday that the President has said on Monday?
b *It was the continent that the fact is well known that Columbus discovered.
- (4) a *Who(m) did a number of books appear last year about?
b *President Reagan, a number of books appeared last year about.

本発表では、(1)–(4)に関する従来の幾つかの分析(例えば、(i)移動変形に課せられる制約の Iwakura (1981) The freezing principle and empirical adequacy と Fukuchi (1979) Constraining extraction transformation, (ii)フィルターの Nakamura (1979) The general crossing constraint, (iii)意味論的制約の中島(1978)『文Ⅱ』(「現代の英文法」5, (今井邦彦氏との共著))の不備を指摘し、代案として新しい(5)のような意味論的制約を提案して(1)–(4)の分布の説明を試みた。

(5) 提示文制約

提示文の焦点あるいはその補部構成素の一部を疑問詞移動によって摘出することはできない。

つまり、外置文は(2)–(4)のような提示文と(1)のような提示文でないものに区別できることを提案して、焦点主語の補部構成素である外置要素からの摘出は外置文の場合は不可能であると議論した。制約(5)を、意味解釈規則－2として位置づけ、(1)–(4)の外置文の摘出現象は意味論的制約でよりよく説明できることを示唆した。